



動画が豊富についた 読んでいてワクワクする超音波検査の本

評者 谷口信行 自治医大教授・臨床検査医学

本書は、カラーなうえに図や写真が多くてわかりやすく、読んでいてワクワクする超音波検査の本である。その疾患の超音波検査を試みたことのある方であれば、臨床の状況と必要な検査を想定できる記述となっている。動画が豊富についているのもいい。超音波検査を扱った書籍は静止画のみで構成されたものが多いが、本書はQRコードにより手元のスマートフォンやタブレットですぐに動画を見ることができる。

タイトルになっている「Point-of-Care 超音波(POCUS)」は、研修医だけでなく、内科・外科をはじめとする多くの臨床医にとって、診療に役立つものである。研修医であれば、現場でPOCUSを行うことで、のちに自分で行わなければならない検査のハードルをだいぶ下げることができるだろう。研修医が修得すべき手技は数多くあるが、なかでもPOCUSはその場で検査を行うことができ、安心して次の診療ステップに進むことができる。ちなみに、POCUSにおいて最近注目を集めているのは肺エコーであり、これは救急や在宅の場面で、肺炎などの肺炎患に加え、左心不全の診断に役立つものである。

焦点を絞った検査でスピーディな治療を

具体例として「Lecture 14 下肢静脈血栓症を疑ったとき」を見てみよう。通常、血栓症が疑われる時には、検査室の技師は、超音波で、両側鼠径部から下腿までの静脈を追跡し、詳細に血栓の有無を評価する。もちろん、その検査手技を修得できれば理想的ではあるが、血栓だけでなく、交通血管などの有無まで確認することを考えると、この検査には20～30分を要することになる。しかし、救急の現場においては、「木を見て森を見ず」の検査であろう。ここでは肺塞栓の原因検索として「深部静脈血栓症」の有無に焦点を絞って、検査することが求められる。血栓の有無に絞って検査を行えば、速やかに次の検査、治療へ進むことができるのである。

各項目の「見出し」に用いられている言葉が優しいのもよい。「2点エコーはすばやく施行できます!」「圧迫操作による動的観察が特徴です!」「観察項目とポイントとは?」のごとく、その項目で重要な点がひと目でわかるようになっている。

最後になったが、超音波検査を行ううえでは、超音波の基礎は避けて通れないものではある。しかし、超音波専門医を目指す方でなければ、学生時代に習った知識で問題はない。得られた画像に疑問が生じた際に見返す、はたまた時間ができた時に調べてみる程度でよいと思われる。それよりも、まずは本書を参考に探触子(プローブ)を当てて、適切な画像を得ることに集中することから始めてみてはいかがだろうか。

⑥



内科救急で使える! Point-of-Care 超音波 ベーシックス

【Web 動画付】

亀田 徹=著

定価: 4,950 円
B5 判・234 頁/医学書院/2019
[ISBN 978-4-260-03805-8]